

# 社会教育委員ニューズレター 第6号

発行 佐賀県社会教育委員連絡協議会  
事務局 佐賀県環境部まなび課内

## 九州ブロック社会教育委員連絡協議会理事会

11月8日、宮崎市で開催された。大分県から協議事項として、「九州ブロック社会教育研究大会と九州地区公民館研究大会の合同開催について」が提出された。

平成31年度佐賀大会の合同開催については、各県からは、会場の収容能力の心配、研修機会の減少に繋がらないか等の意見が出たが、佐賀県の意向を尊重するとして認められた。

これで、九州地区公民館連合会を含めて、全九州が佐賀大会の合同開催を承認したことになる。

ただし、今後については、九州ブロック社会教育研究大会と九州地区公民館研究大会が同一年度、同一県開催とならないように継続して協議していくこととされた。

## 全国社会教育委員連合会総会

9月12日、札幌市で開催された。冒頭、鈴木会長は、「社会教育は、様々な場で力を発揮している。皆が自発的に行動し、活動し、社会貢献するのを手助け（支援・援助）するのが社会教育である。社会教育委員はそのことを自覚しているのかが問われている。自ら発言し、意見を交換し、自らを高めてほしい。様々な地域の事例を知って、自分の地域の社会教育活動に活かしてほしい。全国組織である社教連の組織が存続の危機にある。今後は、組織として何を目指していくのかに集中していく以外にない。」と挨拶された。

表彰規定について、「特別表彰」を新たに設けるよう細則を検討していくとの報告があった。

理由は、社会教育委員歴が20年を超える者が出てきたり、市町委員と県委員の両方で該当する者が

出てきたなどによるもので、柔軟に対応する必要があるとして、新年度の総会で正式提案することになった。

寄附金について、「取組がバラバラではないか。2000万円目標設定を達成する方策はないか。」との意見には、「都道府県、市町村により取組みに違いがあるのは止むを得ない。今後も個々の委員の判断に任せていく。平成30年7月までは寄附を募る。」との回答がされた。

## 県社教委連第2回役員会

11月14日、県庁で開催した。平成31年度佐賀大会には、社会教育委員だけではなく公民館職員も参加することになるので、2000名を超える参加となる可能性もある。そのため、全体会の会場としては、佐賀県総合体育館で椅子を並べる方法や佐賀市文化会館大ホールの様子を中ホール等に映像でつなぐ方法等も今後検討していくことになる。

平成31年度佐賀大会に向けて、社教委連・県公連双方の役員と事

務局で、今年度内に準備委員会を立ち上げ、趣旨や開催時期、開催会場、分科会等についての大枠を検討していくこととなった。

また、新たに「佐賀県社会教育委員連絡協議会表彰規定」が制定され、社会教育委員として10年以上在任し、社会教育の振興に功績があった委員を対象として、新年度から表彰することとなった。

## 社会教育委員実践研修会

11月28日、県内市町社会教育委員や事務局の方々等、約60名の参加を得て、佐賀市久保田農村環境改善センターで開催した。



佐世保市岩崎委員長による基調提案

基調提案をした佐世保市の岩崎勢智子社会教育委員長からは、佐世保市社会教育委員の会議における様々な取組の紹介後、「せっかく、社会教育委員として任命されたからには、社会教育委員の見える化のためのアクションを起こそう。その中で、地域が困っていること、今まで見えなかったものが見えてくる。ミッション、パッション、アクションである。」と締めくくられた。

【アンケート】

問1「基調提案」は、あなたの社会教育委員活動やあなたの市町の社会教育委員の会議の参考になりましたか。

【社会教育委員】

- ・現状を把握し、社会教育委員の会議で問題提起ができるよう活動していきたい。
- ・社会教育委員としての自分の立ち位置、選任された理由、役割が明確になった。
- ・社会教育委員に任命されたばかりで何をどうしたら良いのか掴めずにいたが、今後の意見・提言に、とても参考になる良い情報を得ることができた。
- ・社会教育委員として前向きに取

り組める、主体的に活動する術が見えてきた。

- ・社会教育委員としての自覚を持たなければいけないと思った。

【事務局】

・課題は、どこでも同じだと思っ

- ・今後の社会教育委員の会議の在り方を考える参考になった。
- ・検討事案について、自分が思いつく以外の別の角度・側面からの考えが聞けた。
- ・社会教育委員を任命した時には広報等で広く認知してもらう必要を感じた。
- ・社会教育委員とのコミュニケーションの大切さを再認識した。
- ・社会教育委員としての一歩重要な視点の話をしてもらった。

問2「ワークショップ」は、あなたの社会教育委員活動やあなたの市町の社会教育委員の会議に参考になりましたか。

【社会教育委員】

- ・他の社会教育委員の意見・問題点・困難対策を聞くことができた。今後に生かしていきたい。
- ・小さな企画を実現できるよう、



ワークショップ

社会教育委員としてどんどん意見を述べていきたい。

- ・「社会教育委員の会議」では、「その他」で提案していきたい。
- ・社会教育委員としての心構えを聞くことができた。
- ・社会教育委員の役割について理解できた。
- ・独任制の社会教育委員として、自分自身がアンテナを張って問題提起していきたい。
- ・問題点が明確になり、課題について考える有効な時間だった。
- ・身の回りの小さな疑問点など聞いてみようと思った。
- ・日頃の社会教育活動を積み上げ

ていくことが社会教育委員の活動につながっていく。

- ・本日の参加者は、意識ある人たちがだが、自分の市町ではそこまですべてではない。

【事務局】

・他の自治体の状況がわかって良かった。

- ・社会教育委員の会議の内容をよく考える必要があることが分かった。
- ・社会教育委員同士のコミュニケーションが必要と思った。
- ・社会教育委員の会議の運営準備や議論の展開について、具体的な案を聞けた。
- ・社会教育委員の会議の在り方を検討したい。
- ・社会教育委員の会議を開く前に委員との協議が必要と感じた。

問3「自ら考え、主体的に行動する社会教育委員」として、今後何ができますか。

【社会教育委員】

- ・常にコミュニケーションづくりをしたい。
- ・地域の子ども、お年寄りの手助けができるようボランティア

- ・精神をフル回転して、少しでも役に立ちたい。
- ・現在活動しているのは高齢者ばかりなので、若い人たちを活動に引き込んでいく手立てが何かやれたらと思う。
- ・主体的に社会教育について考え意見できるような心がけていく。
- ・社会教育委員同士が集まる機会を作り、情報交換をし、今、必要な課題を共有する。
- ・地域や団体等から課題を提出できるような役割を行いたい。
- ・社会教育委員と教育委員との会合では、重複する分野での問題提言をしていく。
- ・地域の問題を得るための工夫をする。
- ・関係機関との連携をとる。
- ・委員相互間のコミュニケーションが大事だ。
- ・社会教育委員としての趣旨を理解し、自分の所属団体への落とし込み。
- ・現場の意見を取り入れるために課題の的確な持ち帰り。
- ・教育委員会への働きかけや地域の情報収集と交流。
- ・社会教育委員になってもらう人

- ・を探す。
- ・できることから取り組む。仲間意識を持つ。
- ・まずは、疑問を持つ。

**全体的感想**

**【社会教育委員】**

- ・他市町にも同じような思いの委員がおられることを知ることができ、ともに学習する良い機会だった。元気をもらった。
- ・委員としての在り方を考える良い機会になった。
- ・もつと多くの社会教育委員に参加してほしかった。

**【事務局】**

- ・課題の提案が出ないことを掘り下げて、参加者で考えることができた。

- ・社会教育委員の立ち位置をより理解して、様々な話題について話ができるようになったので、今回の研修の中身を大切にしたい。

- ・社会教育委員との積極的な関わり、コミュニケーションづくりや社会教育委員同士の交流を増やしたい。

**【上野会長総括】**

社会教育委員が、それぞれの立

場で情報収集する。なぜ、社会教育委員に就任したのか。独任制委員として自由に意見を述べる、発言を引き出すために、会議の在り方をひと工夫、ふた工夫する必要はある。社会教育委員同士の交流が必要であるとともに、嬉野市のような教育委員との懇談会、さらには市町議会議員とも話し合いをしていくことも大切ではないか。

**嬉野市社会教育委員と教育委員との懇談会傍聴**

今年度は、嬉野市で開催された嬉野市社会教育委員と教育委員との懇談会を傍聴した。



**社会教育委員と教育委員との懇談会**

懇談会は、学校教育と社会教育は 教育の両輪として連携する必要があるという思いから、嬉野市の杉崎教育長の発案により今年度から始まり、今回（11月22日）が、第2回目となる。

学校教育と社会教育（文化・スポーツを含む）双方の担当課からの事業説明後、市教育大綱や新教育委員制度について協議、意見交換した。

社会教育委員からは、「学校だけではなく、家庭で学習する習慣をつけさせていく親への啓発が必要だ。」教育委員からは、「子供たちの体験活動がもつと必要で、通学合宿をもつと広げていってほしい。」など、様々な意見が出た。

双方の委員から、「共に大人と子供たちに目を向けていくことが肝要である。」「今までお互いがよく知らなかった社会教育と学校教育のことを知ること、取組の協力体制ができた。」と高評価だった。

杉崎教育長から、「将来的には、現在の2回開催から4回程度に懇談会を増やしたい」と希望を述べられた。

## 九州ブロック社会教育研究大会熊本大会

期日：平成30年10月18日～19日  
会場：市民会館シアーズ夢ホーム

他熊本市内

主題：夢や希望「あふれる思い」

ば、かたらんね！～社会教

育でつながる九州の絆～

佐賀県は、第3分科会「社会教育委員の役割と地域住民の絆づくりや活力あるコミュニケーションの維持・発展に向けた社会教育委員の役割について」に、事例発表者を出すことになっており、現在、発表市町を募集中です。

我が市町の社会教育委員の活動事例をぜひ参考にしてほしい、あるいは、発表した活動に九州各県の参加者から更なるステップアップへのアドバイスやヒントが欲しいという市町は、ぜひ御一報ください。

また熊本大会の翌年、平成31年度は、佐賀県で九州大会が開催されますので、できるだけ多くの社会教育委員、事務局の参加をお願いします。

## 新年度役員交代について

「三神地区役員↓上峰町」  
「杵西地区役員↓江北町」  
「監事↓鹿島市」  
になります。

それぞれの市町での人選をよろしくお願いいたします。

## 【シリーズ】我が市町の社会教育委員活動 (三)

### 武雄市の社会教育について

武雄市社会教育委員長 大坪勇郎  
武雄市生涯学習課 社会教育係

武雄市社会教育委員会は委員12名で構成し、年2回の委員会開催と県内外の研修会への参加等の活動を行っています。

社会教育委員会の新たな試みとして、今年度より市内の社会教育団体の現況や課題を把握するため、武雄市地域婦人連絡協議会の各町婦人会長と社会教育委員との懇談会を実施しました。

県内外から地域婦人連絡協議会の組織としての維持の困難さが伝え聞かれる中、武雄市地域婦人

連絡協議会では、会員は若干の減少傾向にありながらも、地道に活動を続けておられます。

武雄市地域婦人連絡協議会の活動は、青少年の健全育成やリサイクル等の環境活動、登下校のあいさつ運動、敬老会の実施、更生保護活動など非常に多岐にわたり、地域のみなさんが安心して暮らせることを願い、行政でも個人でもできない活動を展開されています。

活動はすべてボランティアで行われていることを市民に広く知っていただくとともに、活動の輪を広げるためにも団体の活動への理解を深めていただけるように働きかけを行って欲しいことを望まれています。



ジュニアリーダー育成等、青少年の育成にも力を入れています。

地域婦人連絡協議会だけでなく、子どもクラブや老人会、PTA、青年団等の社会教育関係団体には今後も地域社会を支える重要な役割がありますので、これからも永く活動を続けていただけるよう、目まぐるしく変化する社会情勢をしつかり見据え、地域や行政が一緒になって支援の在り方等を考えていく必要があります。

今後は、社会教育委員が地域の各団体や市議会議員、教育委員等と幅広く意見交換をしながら、武雄市の社会教育の方向性を見出し、市の施策や予算に反映されるようにしっかりと提言をしていきたいと考えています。

## 小城市の取り組み

小城市社会教育委員の会議

副委員長 長崎 兼治

### 小城市の現状

社会教育委員は12名で、学識経験者8名、PTAを含む学校関係者が4名である。

会議は、テーマを決めて年4回開催している。平成25年度は「公民分館長マニュアル」、平成26年

度は「少年・少女スポーツ活動の指針」、平成27年度は「提言書 学校と地域を結ぶ絆づくり」未来を担う子どもたちのために、平成28年度は「生涯学習推進計画のための市民アンケート調査」、今年度は、生涯学習推進計画の策定に向けて取り組んでいる。

**会議の特徴**

会議前には委員にあらかじめ資料が事務局から郵送されてくる。有効かつ円滑な会議のため、事前に資料に目を通し、自分なりの考えをまとめておくと、当日の資料配布よりはるかに有意義である。

会議で意見を言うためには、日ごろから問題意識を持っていることが大事である。そのためには、何か思いついたことをメモしておくこともひとつの方法ではないだろうか。

**印象に残る会議**

9月の第2回会議は、ワークショップ形式で行われた。

ファシリテーターが会議の進行役となり委員は、「青少年の健全育成」、「生涯学習の充実」、「歴史の継承、文化・芸術の振興」の3

グループに分かれて様々な角度から意見を交わし、課題を協議した。協議の後は、各グループから協議内容の発表があり、出た意見を共有し、また、質疑応答をした。会議では、発言しようと思っても雰囲気が悪かったら、「もう、言わじ、いっちゃよう」となるので、雰囲気づくりも大事だと思う。そのためにも、お互いに面識を深め、



**ワークショップ**

意思疎通が良く行われるようにしなければならぬ。

ワークショップ形式は、意見を出やすくする大変有効な方式だ。

**最後に**

社会教育委員の委嘱を受け、3

年目となった。「社会教育とは何か」といつも心掛けているが、納得のいく答えがでてこない。

ひとつには、地域の人々のびのびと、心豊かに過ごすことができるようにしていくことだと思つて、日々努力していきたい。

**基山町社会教育における**

**課題について**

**基山町まちづくり課**

基山町は、佐賀県の東端に位置し、福岡県（筑紫野市・小郡市）、鳥栖市に接する面積22.15平方キロメートル、人口約17,400人の町です。



**町のシンボル基山（きざん）山頂から**

古くから古代官道や長崎街道など主要道路が町域を通り、現在でも国道3号線、JR鹿児島本線、九州自動車道が縦走するなど交通の要衝地として発展してきました。町では、人口減少対策に積極的に取り組んでおり、以前は急速に進んでいた人口減少がようやく増加に転じてきている状況です。

**●課題① 会議の議題について**

会議は年3回開催され、「子育て支援」、「青少年の育成」、「生涯学習事業」など町の社会教育事業に関する議案に対し、積極的な意見が出されています。基山町の事業以外にも、多数の社会教育関係団体が様々な社会教育活動を行っており、社会教育活動が非常に盛んです。しかしながら、それらはほとんど議題に含まれていないのが現状です。

**●課題② 町外への周知について**

人口減少対策にとつて、町社会教育の基盤の形成は非常に重要な役割を果たします。社会教育の基盤がしっかりとしていることは、「住みたい自治体」、「移住したい自治体」として認知されるための

重要な要素です。基山町は社会教育活動が非常に盛んでありながらも、その長所をほとんど町外に周知できていないのが現状です。

●今後の課題のまとめ

①町の事業以外の社会教育活動にも目を向け、議題に含めていくことで、町内の社会教育活動に対する理解を深める。

②町外にも目を向け、基山町の子会教育を他市町に周知し、人口減少対策につなげていく。  
この2点を今後の会議の課題として、取り組んでいきたい。

玄海町社会教育委員会

玄海町教育課

玄海町の現状

玄海町は、東松浦郡で唯一の自治体で、西は玄界灘に面し、晴れた日には、遠く壱岐・対馬を見渡すことができます。また、浜野浦の棚田は「日本棚田百選」にも選定され、多くの観光客や写真愛好家が訪れています。

本町の課題は、加速する人口減少と高齢化に伴う地域活力の低下

です。そのため、ますます社会教育の担う役割が重要となつていきます。

玄海町社会教育委員

本町社会教育委員は、義務教育学校校長、区長、公民分館長、婦人会長、子ども会指導者連絡協議会長、民生児童委員協議会長など男性9名、女性1名の計10名で活動しています。

年3回会議を開催し、委員から活発な意見をいただき、社会教育活動に活かしています。

社会教育事業活動

本町社会教育活動をいくつか紹介します。

親自身が大人としてのふるまいを考え、基本的な生活習慣（早起・早起き・朝ご飯、あいさつ、整理整頓等）を身に付け、子どもと共に自らも成長していくことを目的とした「親学講座」を開催しました。育児に悩む母親達を支援している専門講師を招き、講演4回、個別相談4回の計8回実施しました。アンケートには、「自分だけではできないことがわかって少し心が楽になった」「子育てを見

直すきっかけになった」等の声があり、大変好評でした。



親学講座

また、5・6年生を対象に、通学しながら集団生活を体験することにより、自立心や協調性を養うことを目的にした「通学合宿」や1年生から6年生までを対象に紙漉き体験を行う「玄海っ子教室」を開催しています。地域の方々に協力していただくことにより地域と子ども達との繋がりが強くなっています。

今後とも、様々な社会教育・生涯学習の推進に努め、「人と自然がおりなす笑顔あふれる玄海町」を目指して、活動を続けていきたいと思ひます。

次回「シリーズ」我が市町の社会教育委員活動

次回の執筆担当市町は、佐賀市・鳥栖市・有田町・上峰町となっております。

本年6月中旬をめどに、原稿の執筆をお願いします。

各市町の特色ある社会教育委員活動や委員の会議での協議内容、委員の社会教育委員活動に対する思いなど、内容はお任せします。

執筆者は、可能な限り社会教育委員にお願いしますが、難しい場合は、社会教育委員担当課も可とします。

なお、全て文字だけによる記載ではなく、

活動や記述に関連する写真または図表等を1枚（キャプションも付けて）添付していただくと、読みやすいようです。

※県まなび課のホームページに「ニューズレター（第1号）第6号」を掲載しています。（佐賀県まなび課）で検索。研修資料等に御活用ください。